

霞川圏域河川整備計画の概要

霞川圏域とは？

霞川圏域とは、霞川流域と、成木川を本川として黒沢川、直竹川及び北小曾木川を支川とした流域を合わせた地域のことで、東京都北部と埼玉県南西部に位置しています。

東京都の霞川圏域の河川は、霞川、成木川、黒沢川、直竹川及び北小曾木川の5河川です。圏域の面積は東京都内で64.0km²あります。

霞川は、青梅市の青梅丘陵を源として都内では青梅市に流域を持ち、青梅市中央部を東に流れ、飯能市を流下し、入間市で入間川に注ぐ荒川水系の一級河川です。

成木川は、奥多摩町と青梅市の市町界に位置する黒山を源とし、青梅市内で北小曾木川、直竹川、黒沢川を合わせて飯能市内で入間川に注ぐ荒川水系の一級河川です。

位置図



霞川圏域(東京都)



霞川: 青梅市今井付近



成木川: 青梅市成木付近

流域の特徴

霞川流域では、昭和30年代頃より急速に都市化が進展し、それまで山林や畑地に浸透していた雨水が、地表を流れて河川に一気に流入することによる水害が、多発するようになりました。

一方、成木川の流域は、都内では少なくなっている市街化が進んでいない山地に位置し、恵まれた自然環境を有し、動植物の良好な生育環境が確保されています。

浸水被害を起こした霞川流域
(青梅市大門付近)
平成11年8月撮影



河川整備の目標

霞川圏域では、洪水に対する安全性を向上すると共に、生態系に配慮した川づくりや、水辺に親しめる川づくりを進めていきます。

計画対象区間と期間

計画対象区間は、霞川、成木川、黒沢川、直竹川及び北小曾木川の5河川で、河川の整備から維持管理に関することも含まれます。計画期間は概ね30年を目標としていますが、川をとりまく状況の変化や社会状況の変化に応じて見直しを行います。

河川の整備

治水・・・洪水による水害の防止又は軽減

1時間あたり50mm規模の降雨により発生する洪水を安全に流すことができる河川の整備を進めます。



洪水を一時的に貯める霞川調節池

環境・・・河川環境の保全、創出、再生

残されている自然環境を可能な範囲で保全すると共に、水辺に親しみを持てる身近な川を目指します。



河川で楽しむ市民 (共に成木川)